

2020年「新年のつどい」にあたって（国賠同盟支部挨拶）

2020年1月18日（土） 於:丹後民商会館

◆開会にあたって

新年明けましておめでとうございます。寒い中集まって頂き、有難うございます。
支部を代表して、新年の挨拶をさせていただきます。

◆「つどい」にあたって

国賠同盟京丹後支部は、昨年11月22日、「結成10周年を迎え」、11月24日に「支部活動10年の記録」を発行し、国賠同盟中央幹部を招き「記念講演会を開催」しました。

その記念集会は、会場一杯の42名の参加で成功させることができました。

講師をお願いした有川功さんは、現在 中央本部顧問・大阪府本部名誉会長をされておりますが、京都の立命館大学を卒業後、共産党の専従、富田林市会議員を4期、その後、衆議院選の候補者をされ、それ以来、国賠同盟の活動に専念された経験豊かな方でした。

講演は、「日本の現代史における治安維持法国賠同盟の存在意義」——「侵略戦争肯定の安倍政権とのたたかい、——というテーマで行われ、……国賠同盟50年の歴史と同盟の存在意義、同盟ならではの活動の重要性を改めて深く学ぶことができました。

犠牲者に対する見方も反省させられました。過酷な弾圧でご苦労された、気の毒な方々だったという狭い見方でなく、時の権力に対して、抵抗し、戦争反対、人権尊重、平和・国民の自由や権利を求めて、命をかけて闘った功績が、戦後の日本国憲法に生かされていること、特に32条から40条に国民の権利が明記されていることなど、憲法との関係についても再認識させられ、憲法を守る運動は治安維持法犠牲者の功績、遺志を引き継ぐ大事な活動だ、ということ学びました。

請願署名の3項目についても、犠牲者救援の裁判闘争ではなく、国民運動として広く広げていく請願活動を行っていることなど、新鮮でわかりやすい語り口で、大変有意義な講演でした。すごく勉強になる話だったと思います。

三役会議で検討し、作成した「DVD」を支部役員・全員にレジメも添えて届け、広く鑑賞をして頂けるようにしました。視ておられない方は是非近くの役員から借りて、視てほしいと思います。

京丹後支部の10年を振り返ってみたいと思います。2009年10月に支部結成が呼びかけられ、当時17人だったが、1ヶ月ほどで30数人に拡大し結成日を迎え、参加者は10人でしたが… その時の方針は

第1に、倉岡さんなど犠牲者の足跡、顕彰・墓前祭開催を柱にした活動。

第2に、犠牲者に対する国の謝罪と賠償を求める請願署名1,000筆以上を推進。

第3に、京丹後市の民主勢力の中で、市民権を得られる組織となるよう、早期に、100人の同盟に前進させる。

第4に、そのために、京丹後の平和関係団体との連携。…を掲げました。

◎**墓前祭では**、労組・民主団体によびかけ、賛同を得て実行委員会を立ち上げ、現在は13団体の実行委員会で、第1回以後、毎年開催する事ができました。

倉岡さん没後80周年を記念して、奥丹教組が発行した「倉岡愛穂」という小冊子を250部作成し、あの暗黒時代に、国家総動員と軍国教育に抵抗、戦争に反対し、子どもの自主・自立の教育を探究した功績とたたかいの足跡を、今後長く引継がれるように、ということで250冊増刷する事ができました。現在までの活用では、同盟員に約100部、実行委員会参加団体で約100部普及し、在庫50冊は今後、若い世代に活用しようということになっています。

今年の墓前祭は、「倉岡さんの命日の4月9日（木）午後開催」…4月の市長・市議選の関係もあるので、平日開催を実行委員会へ提案したいと考えています。

◎**同盟の組織拡大では**、結成から約2年で100名の同盟に拡大し、去年の支部総会では、132人まで到達しました。この間、結成時から活動された「小谷憲壱」さん、鞍内の「倉岡澄男」さん、宇川の「三野みつる」さんなど…20人が亡くなりましたが、粘り強く少しずつですが拡大し、「当面150人」にしよう頑張っているところです。

◎**請願署名は**、11月の結成から翌年4月までは390筆でしたが、年々、成果を増やして、2013年度（13年6月から2014年4月末まで）には2,550筆（有権者比5,3%）を国会に届けました。それ以降は2,000筆程度でしたが、昨年・一昨年は、1,300～1,400筆代で後退していますが、今年度は過去最高時突破をめざしています。

◎**平和関係団体との連携では**、メーデー実行委員会、新しい京丹後をつくる会、米軍基地反対丹後連絡会、原水協・平和の間鐘行動、国民救援会と協力共同で合葬・合祀活動などとの連携した活動をすすめ、今年も積極的に取り組みたいと思っています。

◎**市長・市会議員選挙では**、市長選では「会」に結集し、組織あげての闘いにしたいと思っています。候補者は、保守から3人（三崎、松本、中山）…が予定されていますが、「会」の選考委員会も精力的に活動されており、決定されれば、総力挙げて頑張りたいと思います。1月26日（日）14:00～「会」新春のつどい」に参加し、同盟の寄せ書きをつく（本日のつどいで書いてもらって）集会に届けることにしています。

議員選挙は、国賠同盟の要求実現選挙として位置付け、市議会請願を視野に闘いたいと思っています。同盟員の議員もいますのでそれらも考慮（組織内候補）して闘うことにします。

◎**最後に**、

今日の「つどいの次第」の下にも書きましたが、去年の第39回全国大会で提起されたことですが、**2020年代を「治安維持法体制による平和・民主主義・人権（個人の尊厳）破壊の総決算の時代」と捉えて、この時代の総決算の先頭に立とう。**そして、**総決算をするに相応しい自力ある…大衆的、民主的、自主的、政治的同盟への成長をめざそう。**

この大会方針を、正面から受け止め、支部結成10年の取り組みを基礎に、

「今年6月の第12回支部総会成功めざす活動と、当面している4月の市長と市会議員選挙と合わせて、大いに頑張ろう」ということを申し上げて、開会の挨拶とします。

「新年のつどい」によせて

2020年1月18日

治安維持法犠牲者国家賠償要求
同盟京都府本部会長 原田 完

2020年の幕開けにあたり、国賠同盟のさらなる前進と、新しい年を国民の暮らしを応援する政治を実現し、日本経済を再生させる年にする決意を新たにしたいと思ひます。

1月14日に日本共産党第28回党大会が開催され、来賓挨拶をした立憲民主党安住氏は、冒頭から山本宣治さんの右翼暴漢に刺殺された問題にかかわって挨拶がされていました。労農党候補者としてあの戦前に共産党の推薦で国会議員となり、治安維持法の改悪に対する国会討論をしようとしたが、妨害され国会での討論ができずに帰った宿で、その夜に刺殺されたが、治安維持法を許さない先頭に立って闘いました。

安倍首相は、日本軍「慰安婦」問題で、「性奴隷」と言われる残酷な実態があったことを認めようとせず、「徴用工」問題でも「解決済み」を繰り返すばかりで、被害の救済への努力を拒否しています。

一方、世界に目を向ければ、「被害者の救済」を主眼として、裁判などで植民地支配下での強制労働や政治弾圧といった行為を不正義と認め、被害者への謝罪と補償・賠償を行う動きが生まれています。植民地支配そのものの不法性・不当性について追及が始まっています。

第2次大戦の開戦から80年の欧州では、ナチス・ヒトラーがポーランド侵攻を開始した今日1日に、同国の首都ワルシャワなどで記念式典が開催されました。出席したドイツのシュタインマイヤー大統領は、「ドイツの暴虐によるポーランドの犠牲者に深くこうべを垂れる、許しを請う」と謝罪。ポーランドのドゥダ大統領は「真実に向き合い、犠牲者や生存者と相対する」ためのドイツ大統領の訪問は重要だと語りました。

米国でも88年、レーガン大統領が太平洋戦争中の日系米国人の強制収容について謝罪。「市民の自由法」（日系米国人補償法）の署名に際し、「日系米国人の市民としての基本的自由と憲法で保障された権利を侵害したことに対し、連邦議会は国を代表して謝罪する」と表明しました。

植民地支配の責任に対しては、“過去にさかのぼって非難されるべきだ”との認識こそ国際政治の到達点です。これを示したのは、2001年の南アフリカ・ダーバンでの国連主催「人種主義、人種差別、外国人排斥および関連する不寛容に反対する世界会議」の宣言でした。

「被害者救済」の視点が欠落し、新たな世界の潮流に逆行しているのが安倍政権です。憲法の国民主権、平和主義、基本的人権の尊重という大事な原理を、安倍政権はひっくり返そうとしています。

大きな転換点が安保法制です。2014年に集団的自衛権の行使を認める違憲の閣議決定をし、それに基づき違憲の法案をつくりました。

日本はイランに対して何の恨みもないのに、閣議決定で国会への議論もなく自衛隊を中東に派遣し、集団的自衛権で日本が戦争に引き込まれるなんて絶対にはなりなりません。

平和の問題、民主主義の問題で、治安維持法国賠同盟の果たしている役割は、その原点となる運動でますますの発展が求められています。

最後になりましたが、今 京都市長選挙が激しくたたかわれています。

私たちの運動の前進のためにも京都市長選挙へのご支援をお願いするとともに国賠同盟京丹後支部の、さらなる発展を祈念して新年のあいさつとします。

国賠同盟京丹後支部

「2020年新春のつどい」へのメッセージ

2020年1月18日 日本共産党丹後地区委員会

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟・京丹後支部の「2020年新春のつどい」にご参加のみなさんに、日本共産党丹後地区委員会より連帯とお祝いのメッセージを送ります。

みなさん。昨年は市民の力が政治を大きく動かした1年でした。市民と野党の共闘により、夏の参院選で改憲をねらう勢力を3分の2割れに追い込み、先の臨時国会をふくめ4たび改憲案の提出を阻止しました。

大学入試の英語民間試験の導入をめぐり、高校生や市民が反対の声をあげ、ついに導入延期に追い込んでいます。世界では温暖化に心を痛めた若者たちが数百万人規模で行動し、各国に温暖化対策を迫りました。香港でも人権抑圧に反対する民主派が区議選で圧勝しました。

この丹後では、米軍基地の無法に反対する集会で、初めて立憲民主党の代表と共産党、社民党、新社会党の国政野党が並び、「力をあわせ安倍政治を終わらせよう」と訴えました。

世界でも日本でも丹後でも、声をあげ力をあわせれば、政治を変えることができるということを示した1年でした。今年もこの流れを大きくひろげ、ひどい政治をやめさせ、市民の願いが届く政治を実現しましょう。

みなさん。20日から通常国会が招集されます。「サクラ」疑惑やカジノ汚職など腐った政治にメスを入れること、消費税10%増税をうけた増税不況にたいし「5%減税で景気回復を」と提起すること、緊迫する中東への自衛隊派遣の中止を迫ること——など、いまの安倍政権の悪政をただし、くらし第一の施策に切り替える国会内外の論戦と運動が求められます。日本共産党は、「市民と野党の共闘」の力で総選挙に勝利して、安倍政治をやめさせ野党連合政権の実現をめざします。お力添えを心からお願いいたします。

みなさん。今年はさらに4月26日投票で、京丹後市の市長と市会議員の選挙が行われます。日本共産党は「新しい京丹後市をつくる会」の構成団体として、幅広い市民のみなさんと市政の転換をめざします。市議選では、定数2減・20となったもとの、「行政をチェックしハッキリものを言い、市民の願い実現へしっかり働く」4人の議員団の確保に向け、奮闘します。

みなさんの国賠同盟は、「ふたたび戦争と暗黒政治の復活を許さない」ことを求め結成されました。いま新年に当たり、戦争する国づくりを許さず立憲主義の回復と個人の尊厳を擁護する政治の実現をめざすため、ともに力をあわせることをお誓いします。丹後から「くらしに希望がもてる政治を」の声をあげましょう。

最後に19日告示・2月2日投票でたたかわれる京都市長選挙で、「つなぐ京都2020」が推す弁護士・福山和人さんの勝利に向けて、もてる力のすべてで支援することが訴えられています。京都市長選に勝利することは悪政に対抗し「市民が主人公の政治」の実現に向けた全国的な意義があります。ともに全力を尽くすことをお約束し、「新春のつどい」へのメッセージとさせていただきます。

今年もよろしくお願いいたします。

以上